

Navi

Navi

- ① 「食」を豊かにする文化創りのサポートを
- ② 管理栄養士と鍼灸師のダブルライセンスを活かして

Vol.

184

2021.6

①「食」を豊かにする文化創りのサポートを

高校生保護者(家業継承者)

私の家業は、飲食店などに紙製品を製造販売する印刷加工会社です。明治40年に創業以来110年以上、また昭和22年に会社設立から数えても70年以上の歴史があります。事業内容は、箸袋やナプキンなど、「食」の販促物に関わる紙製品全般を総合的にサポートしています。箸袋は国内シェア約60%、紙おしぼり生産量国内1位、その他、紙ナプキン、コースターなど、皆さんが飲食店で目にする主要な紙製品では全国トップシェアです。現在は私の兄が社長を務めています。

私自身は大学卒業後、サントリーに就職しました。サントリーを選んだ理由はお酒が好きで、自分の一番好きなものを売りたいと考えたからです。そこでは販売職としてお酒や食品を商社に売り込む仕事をしていました。具体的には酒屋、スーパー、コンビニ、ホテル、鉄道会社などに商品を卸していました。そこで30歳まで勤めましたが、父親の体調が良くなかったこともあり、家業を継ぐ決心をしました。兄が先に継いでいたので絶対に継がないといけな立場ではなかったのですが、いま思えば小さな頃から父親がやっていた仕事を見てきていたので、継ぐのが自然な感覚としてあったのかもしれません。サントリーに入社したのも家業と同じ飲食店への営業だったので、無意識のうちに将来家業とつながる企業に入っていたのかもしれません。

サントリーではできあがったモノを売るのが仕事でしたが、今はお客様と一緒にモノを作るのが仕事です。仕事の楽しさややりがいは、サントリー(大企業)と家業(中小企業)でそれぞれ違いますが、大企業には大企業の良さがあり、中小企業には中小企業の良さがあります。そのどちらも経験できた私は幸運だと思います。

先ほど紹介したように事業内容としては「食」の販促物に関わる紙製品全般の生産ですが、単に印刷物を生産しているわけではありません。全国に数十万軒あるといわれる飲食店、オーナーさまの思いも様々です。「こんなお店にしたい」といわれるオーナーさまの個々の要望にお応えできるよう、どれだけ資材にオリジナリティを出せるか、オーナー様と対話を重ねながら作っています。新規出店の際にはロゴの提案はもちろん、店舗の内装や料理のメニューまでアドバイスさせていただきます。単に商品を生産する工場ではなく、コンサルティング業も兼ね備えた会社として料理や店舗をサポートできる販促物を作っています。そのためにもお客様からいかに信頼される人物になれるかが大切になってきます。

サントリーで販売を経験し、学んだ「営業力=人間力」は現在でも大いに役立っています。お客様との関係を築きあげ、信頼される人間になるには、お客様の立場に立って物事を考えなければなりません。お客様がいま必要とされているのは何かを的確につかみ、最善の提案をすることを常に考えています。

お客様が販促物に期待する効果もさまざまです。例えば、「今すぐ集客してくれる販促物」「客単価アップに効果のある販促物」「リピート率を上げる販促物」。それぞれ期待する効果によって提案するものは異なってきます。極端な例ですが、「集客アップ」のための販促物を作成してほしいというお客様に対して「客単価アップ」の提案することなどあり得ません。そういった提案をすること自体、お客様との対話ができているということになります。お客様のニーズにあった商品を提案することが一番大切です。

私どもは「食」に関する紙製品を扱う企業ですので、衛生用品も取り扱っています。除菌・ウイルス対策商品も自社で開発し、販売しています。また、災害対策としての備蓄品や医療・介護の現場などで使用できる商品も取り揃えていて、需要もできつつあります。当初は「食」に関するお客様のために開発してきたものが、いまでは「医療分野」にも広がってきて感慨深い物があります。

このコロナ禍の中、飲食店の方々は大変なご苦労をされています。そういった方々のサポートができるよう、これからもお客様との対話を重視し、より良い商品を提供できればと考えています。

日本の「食」をもっと楽しく、もっと華やかに。日本の「食」を文化する、をモットーにお客様の期待に応えられるよう、これからも知恵を絞り、お客様とともに成長していきたいと思えます。



② 管理栄養士と鍼灸師のダブルライセンスを活かして

高校生保護者 羽入亜希子(管理栄養士・鍼灸師・不妊カウンセラー)

管理栄養士のイメージはカロリーを計算する仕事というイメージではないですか？ そればかりではありません。

管理栄養士の就職先は、病院、小学校、保育園、食品メーカー、食品分析センターなどの研究機関などがあります。食品メーカーで管理栄養士が活躍する場も多いです。最近では管理栄養士免許取得後に取得できる、公認スポーツ栄養士は男女共に人気の資格です。

管理栄養士は厚生労働大臣の免許を受けた国家資格で、栄養士は都道府県知事の免許を受けた資格です。管理栄養士の国家試験の合格率は最近では60%ほどで、国家試験の中では難しい試験となっています。

私は大阪府立の学校を卒業し、大手食品メーカーに管理栄養士として勤務しました。営業職や妊産婦の栄養指導を行っていましたが、結婚を機に退職しました。今とは違い、産休や育休もなく結婚を機に退職するのが一般的な時代でした。

その後は双子の出産や育児をきっかけに一念発起し、子供達が小学校に上がる前に、不妊治療に携わる鍼灸師を目指し、鍼灸師の専門学校に入学しました。幼い子どもを抱えながらの勉強との両立はとても大変でしたが、目標に向かい勉強に励みました。

鍼灸師はり師、きゅう師と厚生労働省が許可した2つの国家資格です。合格率は各90%なので、難しい試験ではありません。鍼灸師の学校は私立しかなく、入学も難しくありません。ですから、高校を卒業してすぐに鍼灸の学校に入学する人もいますが、私のように一度社会人を経験してから入学する人も多いです。しかし、実際に鍼灸だけで生計をたてることは難しく、整骨院やトレーナーなど別の資格と併用して生計をたてている事が多いです。肩こり・腰痛などの一般施術の他、不妊治療に対する施術やスポーツ選手のケア、ホスピスでの末期がん患者様への痛みへのケアなどの専門分野もあります。

鍼は髪の毛程度の細い鍼で、ツボに刺していきます。手の感覚を養っていくと、患者さんが痛いと思うところ(悪いところ)「あー、そこそこ」というところがわかります。ピンポイントで筋肉に鍼を刺します。そこがツボです。患者さんの悪いところ、痛いところがわかります。だから患者さんの気持ちにも寄り添えるのです。

私の場合は鍼灸師学校を卒業後は不妊治療専門のクリニックで鍼灸師として勤務し、その後不妊治療専門の鍼灸院を立ち上げました。私は東洋医学だけで全てが解決するというような東洋医学過多ではなく、現在の西洋医学の医療を把握し、その中で鍼灸師として何が出来るのかを考えます。

また、NPO法人日本不妊カウンセリング学会認定の不妊カウンセラーの資格を取得しました。常に進歩を遂げる不妊治

療を勉強しながら、出口の見えない辛い不妊治療をされている患者様の心のケアもしています。

現在は晩婚化や高齢出産の傾向もあり、不妊治療をされる方は約50万人います。薬を使ったり、人工授精、体外受精にステップアップしたら妊娠に至ると思っっている方も多いですが、実際には体外受精をしてもなかなか授からず、この先どうしていいのか、何か出来ないのかと、必死な思いを抱えて、薬をもすがる思いで鍼灸にこられます。

初めて鍼灸に来られる方のほとんどが下半身の血流が悪く、足もお腹も冷えきっていて皮膚の艶も悪いです。脈は元気がなく、心は不安定です。また、食事においては、現代人の食事は糖質過多、タンパク質と野菜不足が顕著で、妊娠に必要な栄養が摂れていません。そこで身体の中から健康になっていく為にはどうすればいいか食事指導を行い、下半身の冷えや血流の改善を行い、心に寄り添います。

お体の状態が良くなれば40代でも妊娠しています。また、鍼灸をして生理不順が改善されると妊娠に至る方も多いです。鍼灸師は鍼灸師の免許を取るだけでは出来る事が限られています。免許を取得してから専門性を高めることで鍼灸の必要性が高くなります。私の場合は鍼灸・管理栄養士・不妊カウンセラーとして不妊治療の患者様を支えています。出産された赤ちゃんの写真が送られてきたときに大きな喜びとやがいが感じています。

また、現在は母親としてスポーツをしている息子が怪我をしないための身体づくりをサポートしています。

